

第52回原子力委員会定例会議議事録（案）

1. 日 時 1997年7月29日（火）10:30～12:00

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 伊原委員長代理、田畑委員、藤家委員、依田委員
工業技術院総務部 兼谷研究業務課長
〃 電子技術総合研究所 田村所長
（事務局等）伊藤原子力調査室長
池本専門委員
政策課 堀田、丸山
国際協力・保障措置課 奥山
研究技術課 石川、新田
工業技術院電子技術総合研究所 岩田
〃 総務部研究業務課 奥田
原子力調査室 杉本、新井、仙石

4. 議 題

- （1）平成10年度原子力関係予算ヒアリングについて（工業技術院）
- （2）平成9年度原子力委員会委託調査について
- （3）その他

5. 配布資料

- 資料1 第51回原子力委員会臨時会議議事録（案）
- 資料2-1 平成10年度国立機関原子力試験研究費
原子力委員会ヒアリング資料（通商産業省工業技術院）
- 資料2-2 平成10年度国立機関原子力試験研究費
原子力委員会ヒアリング資料（補足説明資料）
- 資料3 平成9年度原子力委員会委託調査について（案）

6. 審議事項

- （1）平成10年度原子力関係予算ヒアリングについて（工業技術院）

標記の件について、工業技術院より資料2-1及び資料2-2に基づき説明があった。

これに対し、委員より

- ・研究成果について技術移転の見通しをもって取り組むことが重要
- ・大学や他の研究機関との共同研究、共同利用など連携の強化が大切
- ・高レベル放射性廃棄物の地層処分関連の研究については、対象とする範囲が広く、研究開発全体のプログラム・マネジメントを考えていく観点が重要
- ・研究テーマの選び方は、シーズから応用へと発展させるもの、ニーズから生まれるものなど様々あり、整理するのは難しいだろうが、各々の整合性をとっていく観点も必要
- ・核融合関連の研究について、各種のプラズマ閉じ込め方式ごとにインターアクションなしにいろいろなされているが、今後どのように進めていくか。他分野に応用することで研究に広がりをもたせることも大切
- ・各研究の重要度、緊急度などを事前評価することは、今後大切な問題等の意見があった。

(2) 平成9年度原子力委員会委託調査について

標記の件について、事務局より資料3に基づき、説明があった。

これに対し、委員より

- ・医療・ライフサイエンス分野は非常に広いので、この領域全体を見た上で検討する分野を絞っていくべきであり、検討結果が発散しないようにすることが大切
- ・越境損害の法的救済に関する調査について、国内法への取り入れに向けて今後検討を更に進めることが重要

等の意見があり、審議の結果、本案が了承された。

なお、各課題の契約作業等について、事務局で調整して進めていくこととした。

(3) 議事録の確認

事務局作成の資料1第51回原子力委員会臨時会議議事録(案)が了承された。

なお、事務局より、次回委員会の開会を10時とする方向で調整したい旨発言があり、その方向で対応することとした。